

住谷天來 てんらい 牧師、漢詩人。明治二年二月十六日上野國群馬郡國府村生れ、昭和十九年一月二十七日歿（八六九—一九四四）。幼名彌作、八朔、のち天來に改名（明治四十四年）。號奇想天來、浩々歌、默庵。前橋の幽谷義塾、英學校に學ぶ。明治二十一年同志社の神學生不破唯次郎により受洗。二十三年東京專門學校英語政治科に入るも、程なく慶應義塾別科に轉じ翌年卒業。歸郷して「上野新聞」記者、教師、牛乳販賣業に従事する一方、群馬の廢娼運動に加はり、内村鑑三主宰雜誌「聖書之研究」、松村介石の個人雜誌「警世」、堺利彦、幸徳秋水等の「平民新聞」等に寄稿。四十五年には伊勢崎教會牧師となりた。この間、トマス、カーライル著「英雄崇拜論」（明治二十二年十月三日警醒社書店）を譯刊、「孔子及孔子教」（明治四十四年六月二十三日警醒社書店）等も著はす。昭和二年個人新聞「聖化」創刊（十四年廢刊）。また「大夢の自醒—住谷穆進想録」（昭和十二年七月十日群馬・住谷天來刊、新報社）を編纂出版した他、散文數篇を附した「默庵詩鈔」（昭和十六年十月二十一日平和舎）も刊行。

住谷一彦他著「住谷天來と住谷悦治—非戰論・平和論」（平成九年六月二十日みやま文庫）がある。

